



第2章

21世紀の武蔵野一まちづくりの目標と個性ある圏域づくり

第2章 21世紀の武蔵野 —まちづくりの目標と個性ある圏域づくり—

1. まちづくりの目標

(1) 地域ふれあいまちづくり

高齢者が生きがいを持って暮らせる地域社会を築くことを、まちづくりの基本に据え、施策を展開する。健康で意欲ある高齢者に対しては、就労の機会を提供し、あるいは地域で活動できるしつみを構築して、活力あるまちを維持していく。本計画期間中に、高齢者が健やかに安心して暮らせ、いざという



北町高齢者センターはいつも明るく、いきいきしています。



ふれあいの場。障害者福祉の日運動会。

とき必要な医療や介護が受けられる、自立と互助と公助が手を取り合う「ふれあい社会」の実現を目指す。

在宅福祉を進めていくためには、人材確保、保健・医療との連携、サービス拠点の整備など、取り組むべき課題は多い。また、生活の基盤となる住宅や

■武蔵野市の将来像

[問] 武蔵野市は全体としてはこれからどのような都市になることが望ましいと思われますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを1つだけお答えください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 知的な雰囲気のある文化都市 | 4 学校や市民の学習環境が整った教育都市 |
| 2 静かで緑に恵まれた住宅都市 | 5 商工業がさかんな産業都市 |
| 3 高齢者や障害者が住みやすい福祉都市 | 6 国や都の機関があつまった行政都市 |

静かで緑の 住宅都市	知的な 文化都市	住みやすい 福祉都市	(単位%) その他 の都市
46	28	20	6

市民意識調査'91

特別養護老人ホーム・老人保健施設も必要である。

人が生活していくうえでのハンディキャップを、色々な形で示しているのが高齢者である。高齢者にやさしいまち、障害者にも、他のすべての人にもやさしいという姿勢で、道路、公共施設、交通体系、住宅など、都市基盤整備の段階から配慮していく。

(2) 子どもがいきいき育つまちづくり

最近の子どもたちは、自然との関わりが乏しく、核家族化によって高齢者と接する機会も少なく、地域での人間関係も希薄になっている。

子どものための生活環境づくりを、引き続き推進する。特に、野外活動による実体験の機会を増やし、自主性のある、たくましい子どもの育成を目指す。また、子どもにとって、地域でのあそびや異年齢・異世代交流が大切であり、育成のための「場」と「しくみ」(人と組織)づくりを積極的に進める。

学校教育においては、それぞれの個性を引き出し、伸ばしていくことを心がけ、知性と情緒が融和した児童・生徒を育てる。



はつらつと、たくましく、わくわく親子園。

(3) 快適環境まちづくり

わが国をはじめとする先進国の経済発展は、物質的な豊かさと便利な市民生活をもたらした。一方、その反面で、開発途上国の人口爆発、資源の枯渇、大気汚染、オゾン層の破壊、自然・生態系の変容、地球の温暖化などの問題が発生している。

私たちの身についた便利さや経済的な豊かさを維持しつつ、取り組まなければならないところに、環境問題の難しさがある。遅ればせながら反省が生まれ、自然・緑の回復やリサイクルなど、種々の試みがなされつつある。地味ではあるが着実かつ辛抱強く進めていくことが肝心である。

さらに大切なのは、生産活動のしくみやライフスタイルを変えていくことである。社会的な機運を先導する役割を果たすため、すべての施策を*エコロジーの視点をとおして見つめ、快適環境まちづくりを目指す。

(4) 広域協力まちづくり

いま、時間と空間が大幅に短縮し、情報・人・物・金の流れのスピードと量は驚くほど増え、国内外のあらゆる事象がほかと関係なく成り立つことができなくなっている。

環境破壊は地球規模の課題であり、東京への一極集中と過疎は都市と農村の、またJR中央線の連続立体交差化事業は多摩地域を横断するテーマである。大きくは世界を、小さくは近隣都市を視野に入れた対応が求められている。都市基盤の整備、リサイクルの推進、文化交流など、広域協力で取り組まなければならない課題は多い。しかもこれらは市民・自治体・企業・学校などの連携・協力が不可欠である。私たちは、常に「広域」を意識して考え、行動する必要がある。

※ feed back
得られた結果について、もう一度元に戻し、さらに新しい情報等を参考にして検討・調整すること。成果の一部を施策等の活力源として再利用すること。

(5) 情報交流まちづくり

情報の提供は市民サービスの根幹である。情報が行き届かないために、必要なサービスが受けられないということがあってはならない。

市民が必要とする情報は、行政、生活、文化など多岐にわたるうえ、基礎的な情報から詳細かつ高度な内容に触れるもの、相談の範ちゅうに属するものまで様々である。基礎的な情報については、可能な限り総合化して、市政センターやコミュニティセンターなどで、あるいは市報、テレフォンサービスなど、市民の身近なところで得られることが肝心である。また、ある程度専門にわたるものは、別に情報センター的な機能を整備していく必要がある。

地域情報通信システムの構築に当たっては、このようなソフトの体系的な整理を十分に行ったうえで実施していく。

施策の実行に際して、市民への情報提供と、施策に対する評価(市民の声)、情報のフィードバックの

■定住意向の強さ

(単位%)

昔からここを 離れない	ここが好き 永くいたい	ここに いるだろう	いずれ 移る	関心 なし
27	41	14	11	7

■武蔵野市にたいする誇り・愛着

(単位%)

誇り、愛着を 感じる	どちらとも いえない	感じ ない
72	20	8

市民意識調査'91

しくみは万全か、常に心がけることが大切である。

(6) 「市民のふるさと」まちづくり

本市は、年間約20%の住民の転出入があり、近隣とのふれあいに乏しい都会型の生活構造とあいまって、市民のふるさと意識が定着しにくいといわれている。このような状況を踏まえ、施設の整備や事業の実施に当たっては、武蔵野の自然や風土、文化性を市民に体感させ、心に残るものとしなければならない。しかし、事業が一過性のイベントであり、市民が単なるサービスの受け手である限り、ふるさと意識を共有する、本当の喜びは生まれない。市民が、所属するコミュニティを通じて、事業を自分たちのものとして、継続して参加できるしくみづくりが大切である。

転出していった人たちにも、「住んでいて良かった」「もう一度住んでみたい」と呼ばれる武蔵野市を目指す。



花火大会もふるさとづくりの大きな力。

2. 個性ある圏域づくり

今までの三駅圏の整備方針を継承して、圏域の特性にあわせた個性豊かなまちづくりを進め、市域の均衡ある発展を目指す。

(1) 吉祥寺圏

吉祥寺は、単なる自立都市ではなく、広域の中心的な都市機能を持つに至っているが、この地位は、今後も維持するよう努力する。そのためには、先進的な試みを歓迎する、文化・健康・スポーツ・情報など、良質で選択肢の広い、複合型の商業集積を心がけなければならない。しかし、その場合にも、商業地域の拡大は抑制を基調とし、よく制御された規模の中で、革新的なアイデアを盛り込むようにする（例えば、地域省エネルギー・省資源システム、廃棄物回収システム、情報通信システム、防災機能の向上など）。また、道路交通環境の改善を積極的に進めながらも、一方で長期的には、自動車の流入を抑制する都市構造を目指す。

この圏域のまちづくりの課題は、市民感覚にマッチした清潔なまちとして整備することであり、この方

向性は、環境浄化の運動以来、確認されてきている。そこで以下の方針によって、市民が闊歩できる、市民のまちを作り出す。

- ① 交通環境を改善して、快適で歩きやすいまちとする。
 - ② 環境浄化事業を堅持する。特に、風俗産業、暴力団、麻薬などの問題には機敏に対応して、安全で清潔なまちとする。
 - ③ 公共施設を十分に配し、市民の生活への支援を拡大する。
 - ④ 住宅地域を保護する。
- 1) キーワード:市民が闊歩できるまち。清潔で美しいまち。「生活核都市」の集積された商業の活力。成熟した潤いのある住宅地。井の頭公園の森と湧き水。
- 2) 重点的な課題
- ① 商業ポテンシャル[※]の維持と発展
 - ② 安全で快適な都市環境の回復と創出
 - ③ 先進的な都市機能の試行と導入
 - ④ 住宅地の保全とコミュニティの保護

■乗降客数（平成3年度1日平均）



吉祥寺駅周辺

※ 三鷹・立川間約13kmについて、南北道路交通渋滞の解消、鉄道輸送力の増強を目的とした事業で、昭和44年に促進協議会が設立され運動を続けてきたが、ようやく平成5年度を目途に都市計画決定の見通しがつくことになり、さらに事業認可を促して早期着工を目指す。

(2) 中央圏

三鷹駅の北口から、中央文化ゾーンに向かう軸線は、行政機関が集中している。駅前の整備は早い時期になされたが、駅周辺地域の幹線道路の骨格が十分でなく、駐車場および駐輪場が著しく不足しているために、交通問題はやはり深刻である。市役所、文化施設、スポーツ施設などを、計画的に集中させてきた中央文化ゾーンは、現在も整備が進行している。圏域の住宅地は概ね良好であるが、狭あい道路が多く残されているなど、なお整備が必要である。

1) キーワード:中央文化ゾーン。業務・行政センター。玉川上水のせせらぎ。

2) 重点的な課題

- ① 土地利用計画の確立
- ② 中央文化ゾーンの整備
- ③ 緑化環境の拠点整備
- ④ 良好な住宅街区の形成

(3) 武蔵境圏

広域道路網の結節点をなし、将来の発展が見込ま

れるので、周到に対応して、都市化に秩序を与える必要がある。JR中央線の連続立体交差化事業を推進し、さらにこれを機に、取付道路の南北貫通などにより、南北を一体的に整備して、懐の深い都市構造とする。武蔵境圏には、なお武蔵野の緑とやさしい自然が残っている。このことを大切にして、まちづくり際には、住民の視点に立ち、生活の質の高さを志すとともに、残存する緑地や近隣の大学を活用する。武蔵境駅周辺の商業地は、若者の活気と文化を感じさせるカレッジタウンとしての発展を目指す。

1) キーワード:国際色ある学術ゾーン。学生・若者のまち。やさしい環境。武蔵野の緑・雑木林と歴史。

2) 重点的な課題

- ① JR中央線の連続立体交差化事業
- ② 南北一体の圏域づくり
- ③ 都市施設の充実
- ④ 福祉志向の都市計画モデル事業



三鷹駅周辺



武蔵境駅周辺